

「終わりのければ」いせの会 会報42

平成24年1月30日版

電話 05966・63・5226
ファクス 05966・63・5236

1月11日(水) 例会の記録

縁(えにし)の家 19時〜21時

出席者(10名)

男性3名、女性7名の出席でした。今回は、年末に実施された日赤緩和ケア病棟の見学会と、進富座で上映された映画「エンディングノート」の感想を話し合いました。

日赤見学会の感想

当会に寄せられたアンケート9名の結果も一緒にまとめてみました。

- 今回は開院前なので、建物だけの評価になる限界はある。
- 期待度また今までの経験による判断の差があると思われる。
- 共有空間の畳のスペースは良い。
- 5階からの眺めは、緑もあり良い。ただ、この遠景にホッとするか寂しく感じるかは人によって分かれた。
- 個室の利用と共有空間の利用がどう調和するのか、考えています。
- 各部屋の入口の案内サインが、番号で

なく、花の写真でホツとした。

外の空気に触れられるスペースに、もう一工夫ほしい。というのは自走の車イスでは通路の幅が狭く傾斜も強いなど、利用が無理と思える。

個室に家族が付き添うためには、設置されていたカウチでは狭い。せめて隣で付き添い横になれるソファを望む。

有料室でも、その値段に見合うだけの設備(シャワー・入浴室・家具)のかなと思つた。

緩和ケア病棟全体を入口でロックして入棟制限をしているが、はたしてそこまで必要なのでしょうか。不便です。

電磁波が強いのは、療養環境としては疲れて困ると思つています。

映画エンディングノートの感想

監督トークと共に、まとめてみました。

真剣に自分の最期を考えていることが伝わってきた。

作りものでない普段の生活の経過を写し撮っていることには驚く。

娘さんが臨終の放心状態が続いた3カ月後に、自らのグリーンフワックとして作り、元々は上映を目的としていなかったことには納得できる。

ただホスピスに家族が入院した会員の経験から見ると、良く出来過ぎている

映画に思えます。

● 監督自身「いい話にしたくはなかった」父と息子(段取らないと心配という性格)の符合がないと、こういう結果に至らなかつただろうと思えます。

● 家族間の気持ちのヒダは描かれているが、病院や教会に受けとめてもらっていないければ、どんな展開だったでしょうね(行き違いが多い実情ですから)。

● 限られた時間の中で、家族がいかに交流したかというドキュメントですね。エンディングノートの中身は実はキャッチボールされている。「今は教えられない」と言うが、教えられてもその時そうとは気がつかないものだと思つ。

↓津でも上映されます。2月11〜25日
ワーナーマイカル津(サティ横)

決まったことや情報交換

- 次回 2月8日(水)19時〜20時半
- 場所 縁(えにし)の家
- 3月での新たな区切りを考える
- パネル展示を計画したい
- 病院の待合スペースを借用する形など
- 今ある資料を整理、製本・発行を考える
- 松阪に緩和ケア病棟がさらに1か所増